

マレーシア便り (第9回)

兵庫県立津名高等学校
理科 物理担当 井俣 由貴史

こんにちは。まだまだ寒い日が続いていると思いますが、いかがお過ごしでしょうか。マレーシアには四季がないので、雪などの四季を感じることを懐かしく感じています。

さて、12月22(月)～26日(金)には、2年生最後の試験となる「修了試験」がありました。この試験も、学生が日本へ留学できかを決める1つの試験です。前回報告しました「日本留学試験(EJU)」と合わせて総合判断します。EJUが終わり、学生の間にはほっとした雰囲気が漂いましたが、学生たちはすぐに修了試験へ向けて、切り替えることができました。

クリスマスはイスラム教には関係ありませんが、ショッピングモールなどでは、飾りつけをしたりして、その雰囲気を存分に楽しんでいました。

正月は花火がKL中心街であがっていました。ショッピングモールの中は、のんびり文化のせいか、クリスマスの飾りがそのまま維持されており、正月もクリスマスの延長という雰囲気でした。まさに、「We wish you a Merry Christmas and Happy new year」でした。

2015年1月16日(金)17:00、文部科学省、マレーシア政府人事院がEJU試験、修了試験の結果から判断した、日本留学の可否発表がありました。無事、73名全員が合格することができました。とても喜ばしい結果です。

合格発表を見るときに驚いたことがありました。日本では合格発表を見るときは、まず自分の名前(番号)があるかを探す人が多いと思います。しかし、学生たちは合格者名簿が張り出されると、自分の番号を探さず、うつむいていました。学生会長が全員の番号があるかを数えていました。全員分の番号があることを確認すると、叫びました。そして、全員が一斉に喜びの声を上げました。学生たちにとっては、全員が合格するということが何よりも大事であったみたいです。

この結果で、マラ大学予備教育で学んだ学生73名が日本の国公立大学工学部に留学できることが決まりました。具体的な大学はこれから決定されていきます。また、国費で日本留学できるのはマラヤ大学以外にもう1つあります。帝京マレーシア日本語学院

(Institut Bahasa Teikyo 略IBT)です。IBTからの日本留学生もいるので、100人近くのマレーシア人が2015年度から日本の大学に入学することになります。そこで、この文章を読んだ日本の学生にお願いします。大学でこのような留学生に会ったら、積極的に交流して欲しいのです。このような留学生は日本の様々なことを学びたくて、日本にいます。しかし、言語、文化の壁から、マレーシア人だけのコミュニティを築き、外へ向くことができない学生もいます。(マレーシア人だけではないと思いますが)この留学生たちは日本語を話すことができます。日本の文化のこともある程度は理解できています。きっと、交流をするとお互いにメリットが与えると思います。「英語を勉強したい」、「外国のことを知りたい」きっかけは何でもいいと思います。マレーシア人の英語能力はアジアNo.1ともいわれています。日本語と英語でコミュニケーションしたりするのはいかがでしょう。日本の学生が得ることも、とても大きいと思います。

【Merry Christmas and Happy new year】



【留学可否発表】



【ONE STEP TO JAPAN】

1月18日(土)には、「ONE STEP TO JAPAN」というイベントがマラヤ大学で行われました。日本留学ができるプログラムがあることをPRするようなイベントです。物理、化学、数学、日本語科が2テーマずつ教室を開きました。大学から招待された、現地の高校生は楽しく科学や日本の文化に触れあうことができたのではないかと思います。物理は「光」と「静電気」がテーマでした。私は「光」を担当しました。もう一人の先生やAAJの生徒にマレー語を教えてもらい、当日はマレー語で説明しました。(原稿を読むだけですが)あとは、あまりできない英語で乗り切りました。このようなことを通して、日本で学んでみたいと思ってくれる生徒が増えることを願っています。

